

なし管理情報 No.4

令和7年5月13日
下野方梨組合
魚津市農業協同組合
富山県新川農林振興センター



1 生育状況

- ・「幸水」の満開は、4月17日頃で、前年に比べ1日、平年に比べ3日遅かった。
- ・「幸水」の結実は、約3果/果そうで、平年並～やや良好。長果枝は花芽が少なく、結実量もやや少ない。
- ・「豊水」の結実は、やや良好。

開花状況（下野方）

年次	豊水		幸水	
	開花始	満開	開花始	満開
R7年	4/12	4/15	4/15	4/17
R6年	4/11	4/13	4/13	4/16
平年	4/8	4/11	4/12	4/14

2 病虫害防除

1) 薬剤防除

回数	散布時期	散布薬剤と希釈倍率	散布量 (ℓ /10a)	対象病虫害	実施日 (自己記入)
7	5/22～24頃 (袋かけ直前)	デランフロアブル 1,000倍 スミチオン水和剤40 1,000倍	350 ℓ	黒星病、赤星病、黒斑病 心腐れ症（胴枯病菌） ハマシ類、シクイシ類 カミシ類、クワカガラムシ	
8 ※1	6/1～3頃	オキシラン水和剤 500倍	350 ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病	
9 ※2	6/11～13頃	ベルコートフロアブル 1,500倍 ダイアジノン水和剤34 1,000倍	350 ℓ	黒星病、黒斑病、輪紋病 うどんこ病 ハマシ類、シクイシ類、アブラムシ 類、コカガラムシ類若齢幼虫	

※1 カメムシ類、コナカイガラムシ類、アブラムシ類の発生が多い場合は、ダントツ水溶剤（4,000倍、収穫前日まで、3回以内）を加用する。

※2 カイガラムシ類の発生が多い場合は、アプロード水和剤（1,000倍、収穫30日前まで、2回以内）を加用する（8回目、9回目と混用可）。

- ・農薬散布にあたっては、①ラベルを必ず確認し、②周辺の作物や住宅への飛散に注意して実施する。複数の害虫が発生した場合の散布薬剤の選定については、振興センターへ相談する。
- ・散布予定日に降雨が予想される場合は、散布間隔が開きすぎないように前倒しで実施する。
- ・散布ムラが生じないように丁寧に散布し、薬剤がかかりにくい園地周辺は補正散布を徹底する。

2) 病虫害発生状況

【黒 星 病】芽基部病斑の発生率は「幸水」0%、「豊水」1%と少ない。春型病斑の発病果そう率は、「幸水」0%、「豊水」1%で、前年、平年に比べ少ない（5/9時点）。

【木 材 腐 朽 菌】萎縮症状がやや多い。

【モモチョッキリゾウムシ】一部園地で4月末頃から果実被害が発生。

【ナシヒメシクイ】フェロモントラップでの誘殺は、3月第6半旬から4月第6半旬まで連続して確認、ピークは4月第3～4半旬で、誘殺量は平年よりやや多い。

【カ メ ム シ 類】チャバネアオカメムシのフェロモントラップへの誘殺は無し（5/9時点）。園地で成虫が目撃されている。

3) 黒星病対策のポイント

- ・芽基部病斑、春型病斑は、見つけ次第摘み取り、園地外で処分する（図1）。



図1 黒星病の病斑（左：健全な芽基部、中央：病斑のある芽基部、右：葉柄上の春型病斑）

3 今後の管理

1) 摘果

(1) 予備摘果

- ・満開後10～20日から開始し、5月中旬頃を目途に全品種の作業を完了する。
- ・残す果実は、果そう内に1果とする。

<残す果実の特徴>

- ・果梗が上～横向きで長くて太く、果形がやや縦長で大きく整っている果実（1番果以外の3～5番果あたり（図2））
- ・葉枚数が多い果そうの果実
- ・「新水」、「豊水」、「あきづき」は、斜め～横向きの果実（軸折れ防止）

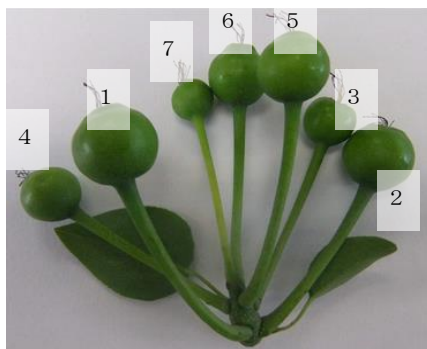


図2 番果の数え方
（果そう基部から順に数える）

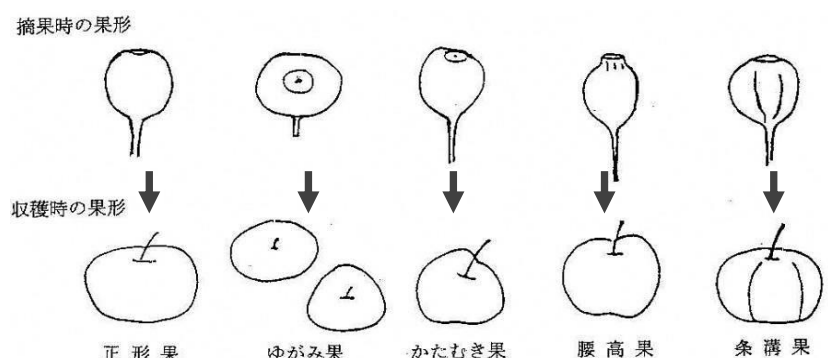


図3 幸水の摘果時と収穫時の果形（原図 長野県果樹栽培指針）

(2) 仕上げ摘果

- ・下表を目安に行うが、樹勢の強弱によって着果量を加減する。

表 仕上げ摘果時の着果量

品種	仕上げ摘果 完了時期	1 m ² 当たりの着果量	1 樹当たりの着果量 (3間植えの場合：5.4m×5.4m)
はつまる	満開後30～40日頃	9～10果	260～290果
筑水	満開後30～40日頃	12～13果	340～360果
なつしずく	満開後30～50日頃	11～12果	320～340果
幸水	満開後30～40日頃	9～10果	260～290果
豊水	満開後30～50日頃	11～12果	320～340果
あきづき	満開後30～40日頃	11～12果	320～340果
甘太	満開後30～50日頃	10～11果	290～320果
新高	満開後30～60日頃	8～10果	230～290果

2) 新梢管理

(1) 予備枝の管理

ア 目的

- ・先端の新梢伸長促進（優良長果枝の育成）
- ・短果枝の育成（次年度、着果させる）

イ 実施方法

- ・予備枝は、先端新梢1本を残して他は全て摘心する（図5）。
- ・果そう葉の無い新梢は、葉3～4枚残し、果そう葉のある新梢は、果そう葉を残して摘心する。

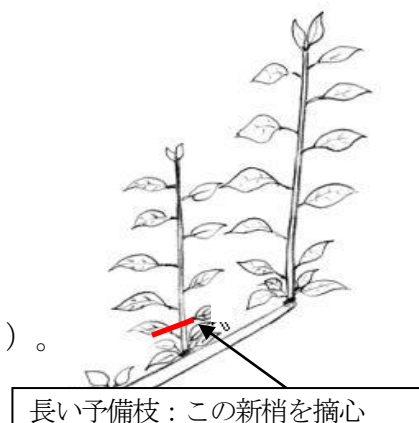


図5 予備枝の摘心

(2) 側枝の管理（摘心）

ア 目的

- ・短果枝の育成
- ・果実肥大の揃いを良くする

イ 実施方法

処理時期：5月中旬～6月上旬頃（満開後30～50日頃）

処理部位：側枝の基部～中央部

処理方法：果そう葉の無い新梢は、葉3～4枚残し、果そう葉のある新梢は、果そう葉を残して摘心する（図6）。

再処理：摘心後、新梢が再伸長した場合、随時かき取る。
（新梢長が15cm程度で止葉ならそのままよい。）



図5 摘心位置

ウ 注意事項（重要！）

- ・樹勢が低下している樹は摘心しない。
- ・30cm以上伸びた新梢の摘心は、樹勢を低下させる恐れがあるので行わない。

3) 「なつしずく」のジベレリンペースト塗布

- ・「なつしずく」果梗にジベレリンペーストを塗布することで収穫盛期が1週間ほど早くなり、「幸水」との収穫競合を軽減させることができる。ペースト塗布による果実品質や日持ち性に大きな影響はない。
- ・処理前までに仕上げ摘果を完了する。

本年の「なつしずく」処理時期 **5月16日～26日頃**（満開30～40日後）

使用量：20～30mg/1果

4) 土壌水分管理

- ・近年、管内では5月中下旬に5日以上連続した無降雨日が発生しやすい傾向にある。また、5月13日頃から高温が予想されている。**無降雨日が5日以上続いた場合、5～7日目に1回あたり20mm程度のかん水を行う。**

4 農作業安全

- ・5月下旬は30℃近くまで気温が上がることもあり、体は汗をかくことに慣れていないため、熱中症のリスクが高まる。こまめな休憩と水分補給を心掛ける。

<お知らせ>

- ・次号は、6月13日頃の発行を予定しています。